

おもいやりプロジェクト報告

医療技術職・事務職員対象の接遇研修をそれぞれ職種ごとに行いました。それぞれが日々の業務で対応に迷ったケースを持ち寄り、グループワークにて事例検討しました。

病院に来られる方は体調が悪く、辛い思い、不安な思いを抱えて来院されています。いろいろな事例にふれ、待ち時間や受診、支払いの場面など、病院の当たり前は、患者さんにとっては当たり前のことではなく、不安な思いをされていることや、各窓口・電話対応・診療や待合の場での関わりなど、さまざまな場面での患者さんとのやりとりの中で、どのような説明や言葉かけがあると安心していただけるのか話し合いました。

病院での対応が行き届かず、ご指摘をいただくことも多いのですが、職員に欠けていることを教えていただくきっかけとなっていると気づくことができました。

参加者からも「いろいろな事例を考える機会がもて、業務の参考になった」「患者目線で寄り添うことが大切であるとわかった」「自分の当たり前は他人の当たり前ではないと、忘れずに仕事をしたい」などの感想が多くあり、日々の業務を振り返り、今後の姿勢を見直す良い機会になったと感じます。

患者さんがホッとする病院は、きっと職員にとってもホッとする病院だと思います。

一日一日、患者さんひとりひとりの関わりを大切に、患者さんが病院に来てホッとした、と思ってくださいような病院にしていきたいです。



栄養室通信

11月に入り、朝晩の冷え込みは厳しさを増し、冬がもうすぐそこまで迫っています。これから体内を温める食べ物をしっかり摂り、肺など呼吸器の保護に努めることが大切です。乾いた空気は呼吸器を直撃しやすく、免疫力が低下すると風邪をこじらせ肺炎に…という方も見かけます。滋養豊かな食材で免疫力を強化しましょう☆

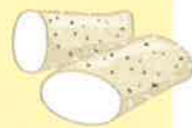
11月は胃腸の働きを高め、体を温める根菜類がますますまみを増してくる嬉しい季節です。今回は10月～3月が旬の山芋を紹介します。

ネバネバのもとムチンは、アンチエイジングに効果のある成分です。コリン・サポニン・アルギニンといった特殊な成分は、内臓の機能を高め、精力増強を促進し疲労回復、虚弱体質の改善、病中病後の栄養補給に効果を発揮します。



美味しい山芋の選び方

- ・皮が薄くて傷や斑点がなくきれいなもの
- ・手に持ち重量感があるもの
- ・ひげ根やひげ根の跡が多いものは、粘りが強いとされている
- ・表面の凹凸が少ないもの



おすすめ調理方法

サラダなど生食をする場合は、繊維に沿って縦切り（カット見本：写真左側2つ）にすることで、あくが出づらくなり、シャキシャキとした食感とみずみずしい味わいを楽しめます（触りすぎると、ぬめりが出るため注意しましょう）。新物はあくが強く、水分が多いので、この食べ方がおすすめです。

ソテーや揚げものなど加熱調理をする場合は、繊維を断つように横に切ると甘みが増して、ホクホクした食感に仕上がります（カット見本：写真右側2つ）。山芋は、タンパク質の分解も助けてくれるので、免疫細胞に必要なタンパク質の吸収をよくしてくれます。そのため、魚介類や鶏の手羽先などの動物性たんぱく質を上手に組み合わせるとよいでしょう。しかし、山芋に含まれるムチンは熱に弱く、加熱して摂ることで栄養素が失われてしまいます。そのため、生の山芋を薄く切り、鰹節をかけて醤油で食べるのがおすすめです。



～免疫力を強化し秋の冷気に負けない体力をつけましょう～

編集後記

今年の夏は暑かったですね。日照りで野菜が育ちにくかったと聞きました。台風の影響もあって、秋に収穫できる野菜や果物が不作のようです。味覚の秋は期待できないので、今年は読書の秋を満喫します。(M.O)

加賀市医療センター

広報委員会

〒922-8522 石川県加賀市作見町36番地
TEL 0761-72-1188(代) FAX 0761-76-5263(代)
E-mail kikakukeiei@city.kaga.lg.jp

平成30年11月1日発行



おもいやり

目次

P2・3 …… 介護福祉士の紹介

P4 …… 特集 ・おもいやりプロジェクト報告
・栄養室通信



臓器移植普及推進グリーンリボンキャンペーンに賛同し、10月15日より21日までグリーンライトアップを行いました。

基本理念

「おもいやり」
私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります



基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

介護福祉士の紹介

6東病棟 回復期 リハビリ病棟

私たち6東病棟(回復期リハビリ病棟)では、入院患者さんのできない部分を援助し、残存能力が向上できるようにかかわっています。患者さんが退院後、安定した生活を送れるように、その方に応じた日常生活動作の獲得を患者さんと一緒に目指しています。認知症の患者さんには、レクリエーションや背部マッサージなど、患者さんに寄り添ったケアに努めています。

お仕事
その1

安心安全に入院生活が送れるように
食事介助・排泄介助・入浴介助などを行っています

食事介助



介助の必要な方にはラウンジで、えんげ嚥下体操を食前に行っています。食事のムセなどを注意しながら介助します。また、食後の口腔ケアもしっかりと行っています。

排泄介助



陰部洗浄・おむつ交換、皮膚トラブルなども確認しながら褥瘡よくぞう予防の体位交換も行います。また、回復の過程では、トイレへの誘導など、自立に向けた介助を行っています。

入浴介助



週2回病状にあわせて禁忌動作を指導しながら、自宅や施設を想定した入浴動作指導・介助を行っています。

お仕事
その2

レクリエーションの企画・実施を行っています

入院中はどうしても生活が単調になりがちで、活動の少ない患者さんにとっては刺激が少なくなりがちです。そこでレクリエーションを行っています。個人では、塗り絵や折り紙、集団では、風船バレーやカラオケなど行っています。楽しくリフレッシュできる時間を提供しています。



折り紙であさがおを作りました

みんなで楽しく風船バレー



お仕事
その3

病棟で実施されるリハビリの介助を行っています

リハビリ担当者から依頼された病棟訓練に付き添い介助を行います。歩行器や杖などの補助具を使用し、患者さんに合った歩行訓練を行っています。患者さんの自立支援をサポートしています。



お仕事
その4

カンファレンスに参加しています

カンファレンスに参加し、ほかの専門職種スタッフと話し合い、患者さんの情報共有・退院調整を行っています。入院中の生活動作状況を伝えています。

6東病棟のスタッフたち



4西病棟 地域包括 ケア病棟

4西病棟(地域包括ケア病棟)は、急性期治療を終了し、すぐにお家や施設へ退院するには不安のある患者さんに対して、診療・看護・リハビリを行う病棟です。安心して退院できるように、医師・看護師・介護福祉士・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士などがチームで支援をします。

私たち4西病棟の介護福祉士は、身の回りの世話をするだけの介護ではなく、生活全般に関わっています。「できない部分」を補うのではなく、「ひとりでできそう」「少しの介助でできそう」という部分を探し、その人の持っている力を十分に発揮できるように支援し、その人らしい生活が送れるようお手伝いをしています。

具体的には?

日常生活援助



もう少しで起き上がれますよ

生活=リハビリと考え、起き上がり・食事・排泄・移動・入浴・更衣などの練習、介助を行います。

例えば、尿意がありトイレに行きたいが、歩行・排泄動作が不安定な方に対し、手すりなどを設置して安全に動くことができる環境に調整をし、トイレ排泄練習を行います。

環境調整

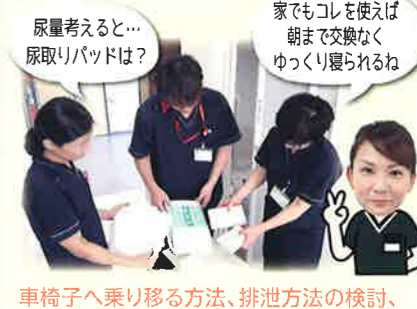


両手でつかまれば安定するのでは?

ひとりでトイレと洗面所行くには...

病室を安全に動くことができる環境に調整します。退院後の生活を見据えて、病室の環境を退院先に近づきよう調整します。

介護指導



尿量考えると...尿取りパッドは?

家でもコレを使えば朝まで交換なくゆっくり寝られるね

車椅子へ乗り移る方法、排泄方法の検討、オムツ選択・交換方法、退院後の生活環境、家族の負担など、さまざまな要素を考慮して検討し、指導します。

レクリエーション

リハビリや食事以外もベッドから離れて過ごし、入院生活にメリハリをつけ、「身体機能の向上」「脳の活性化」「コミュニケーションの促進」「生活の質を高める」「意欲のアップ」を図るためにレクリエーション活動を行います。



どうやんの?

むずかしいわ

アハアハ

できた!!

ここの切ればいいやね

ここの切ればいいやね

今年の夏は、折り紙で花火を作りました。

他の患者さんと話をしながら行うのが好きな方、ひとりでコツコツと行うのが好きな方、それぞれのペースで好みに応じたレクリエーションを行います。



完成!!

花火ができました!

私たち4西病棟介護福祉士の目指す介護とは...

入院は人生のひとつのエピソード。入院前から続いている生活のひとつコマにしか過ぎず、退院後も生活は続いていきます。「病気が良くなる=元の生活ができる」ではありません。退院はゴールではなく、その後続く生活へのスタートと考え、退院後もその人らしく生活できるよう関わっていきたく思います。

4西 4西病棟のスタッフたち

